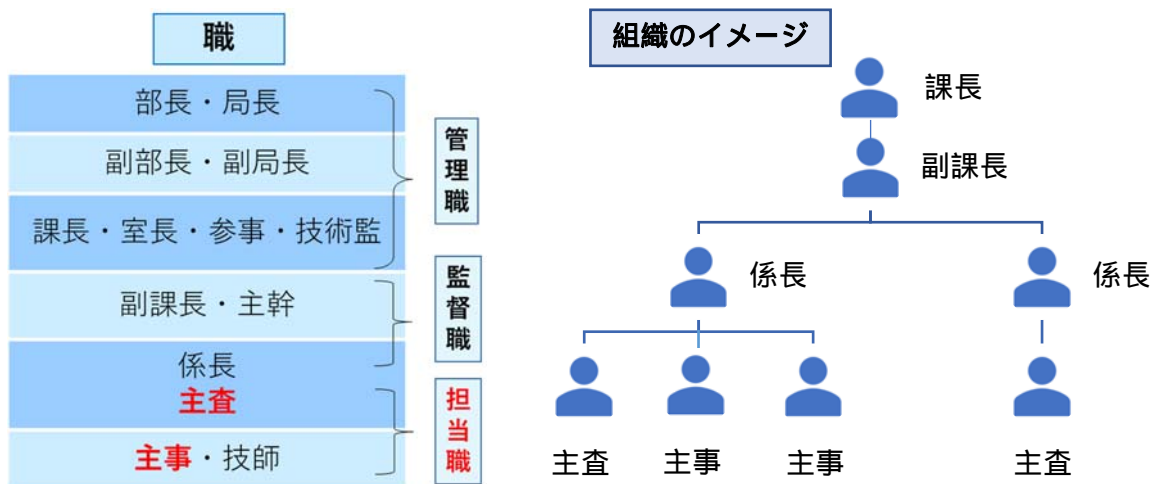


主査と主事の違いについて (Q&A)

Q1: 「主事」と「主査」とは何ですか？

A1: 「主事」が一番下の職、「主査」が一つ上の職となります。例えば、大卒新卒者は「主事」で採用され、その後、「主査」に昇任することになります。



Q2: 「主査」は、「主事」の上司となりますか？

A2: どちらも担当職であり、監督職ではないことから部下を持つことはありません。(上記イメージ図参照。)

Q3: 同じ担当職である「主事」と「主査」の違いは何ですか？

A3: それぞれの職に求められる能力が異なり、「主査」には「主事」より全般的に高いレベルを求められます。「主事」には求められず「主査」に求められる標準的な能力としては、例えば、対人折衝能力や先見性が挙げられます。

Q4: 「主事」と「主査」で特に求める資質・経験等は異なりますか？

A4: 「主事」は政策立案能力、業務遂行能力等が求められますが、「主査」は、主事にプラスして、対人折衝能力、先見性等が求められます。詳細は、試験案内の2ページに記載しておりますので、ご確認ください。

Q5: UJI ターン枠(主査)とUJI ターン枠(主事)では、試験の難易度は異なりますか？

A5: 試験は、試験区分ごとに実施し、主査又は主事としての能力・適性を有するか判定します。

Q6: UJI ターン枠(主査)とUJI ターン枠(主事)の受験者数はどちらが多いですか？

A6: 参考までに、昨年度の試験の受験者数・受験倍率は以下のとおりです。

【令和2年度試験結果】

UJI ターン枠(係長級) 受験者数 172名、最終合格者数 10名、受験倍率 17.2

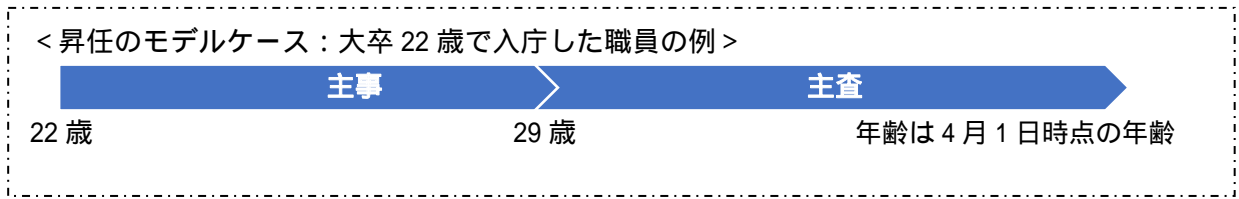
UJI ターン枠(主事級) 受験者数 191名、最終合格者数 17名、受験倍率 11.2

昨年度のUJI ターン枠(係長級)はUJI ターン枠(主査)に、

昨年度のUJI ターン枠(主事級)はUJI ターン枠(主事)に変更しました。

Q7：何歳ごろ、「主事」から「主査」に昇任しますか？

A7：主事から主査へ昇任する年齢等の目安につきましては、下記のモデルケースをご参照ください。



上記のモデルケースでは、入庁時の22歳から29歳までは「主事」を経験し、30歳を迎える年度の4月1日に「主査」となっています。（あくまでモデルケースのため、昇任の時期は異なる場合があります。）

Q8：UJI ターン枠（主査）とUJI ターン枠（主事）では、入庁後の昇任のスピードは異なりますか？

A8：入庁時（スタート）の職位は異なりますが、これ以外の昇任に当たっての取扱いは同じです。

Q9：「主事」と「主査」で給与は差がありますか？

A9：給与の例については、下記のとおりです。なお、給与等については、試験案内の7ページに詳細を記載しておりますので、ご確認ください。

<初任給(例)>

試験区分	29歳	34歳	39歳
UJI ターン枠(主査)	約24万円	約28万円	約32万円
UJI ターン枠(主事)	約23万円	約26万円	約28万円
社会人経験枠	約21万円	約24万円	約26万円

※UJI ターン枠は、22歳で大学卒業後、ストレートで民間企業等に入社したものとし、それ以降の年数を民間企業等における経験年数として初任給を算出。

※社会人経験枠は、22歳で大学卒業後、2年間の海外ボランティアを経験し、それ以外の期間は民間企業等における経験年数として初任給を算出。

※給与改定により初任給が変わる場合があります。

Q10：UJI ターン枠（主査）とUJI ターン枠（主事）では手当や勤務条件は異なりますか？

A10：異なりません。同じ給与体系、勤務条件が適用されます。

Q11：申込後に、試験区分の変更はできますか？

A11：申込後の変更はできません。申し込みの段階で「主査」と「主事」のいずれかを選択して申し込む必要がありますので、試験案内の「特に求める資質・経験等」、「給与等」及び「昇任のモデルケース」等をよく確認し、希望する職にお申込みください。